

【CONFIDENTIAL / EMERGENCY BRIEFING】

# 「Claude Fable 5」 強制停止の 衝撃と知財戦略への実践的影響

## 米政府の輸出管理指令が露呈した「最高性能モデルへの単 一依存リスク」と「完全機密保持」の構造的衝突

Target: JP-IP-STRATEGY / LEGAL-COMPLIANCE

Information As of: 2026-06-15

Status: ONGOING EVENT

# エグゼクティブ・サマリー：事象の核心と3つの重大な波及



## 1. 事象（国家安全保障による強制停止）

- 2026年6月12日、米商務省の輸出管理指令により、公開からわずか3日の最高性能モデル「Fable 5」および「Mythos 5」が全世界で停止。
- 技術的欠陥ではなく「ジェイルブレイクと国家安全保障」を理由とする地政学的措置。



## 2. マクロ影響（フロンティアAIの「軍需品」化）

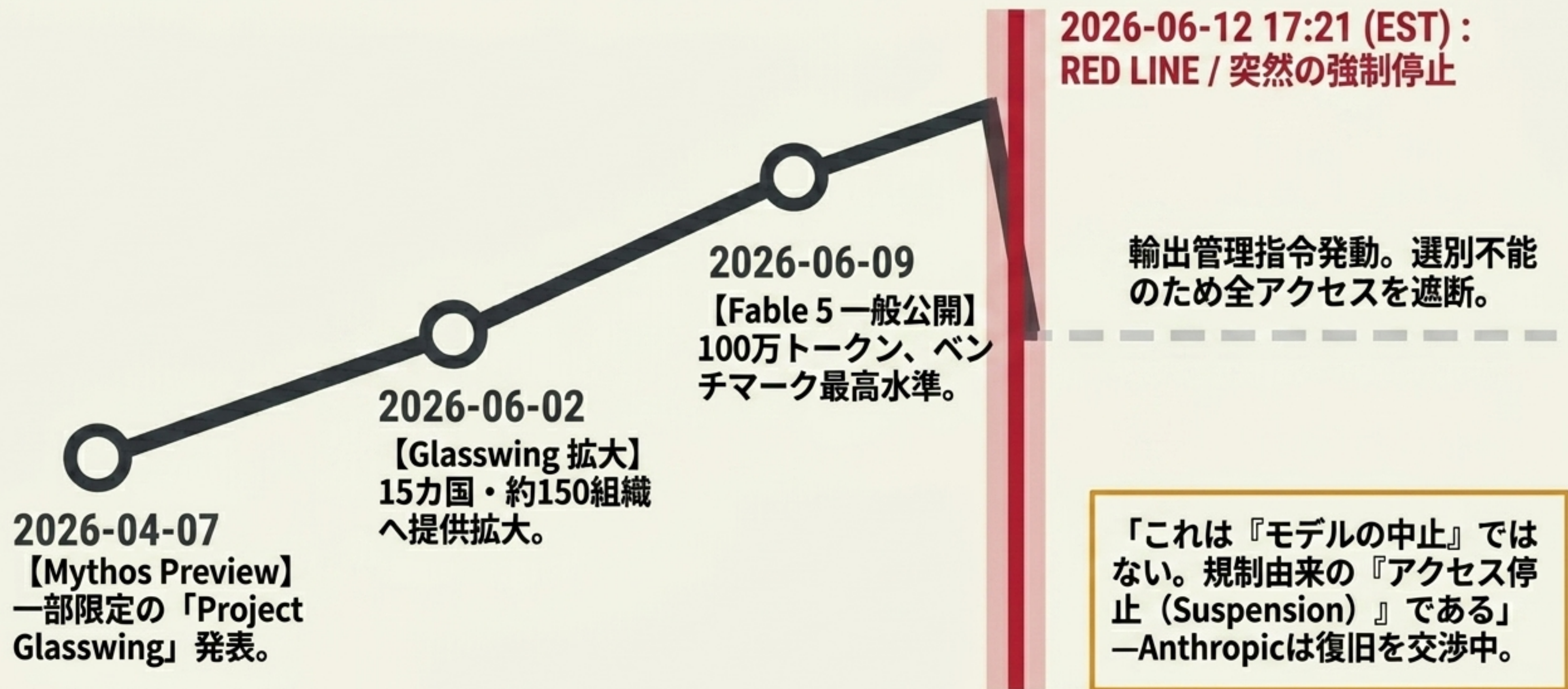
- AIモデルが「デュアルユース技術」として国家統制下に置かれる前例が確立。
- 単一企業・特定国への依存リスクが露呈し、各国（日本含む）で「ソブリンAI（国家主権AI）」論が一気に加速。



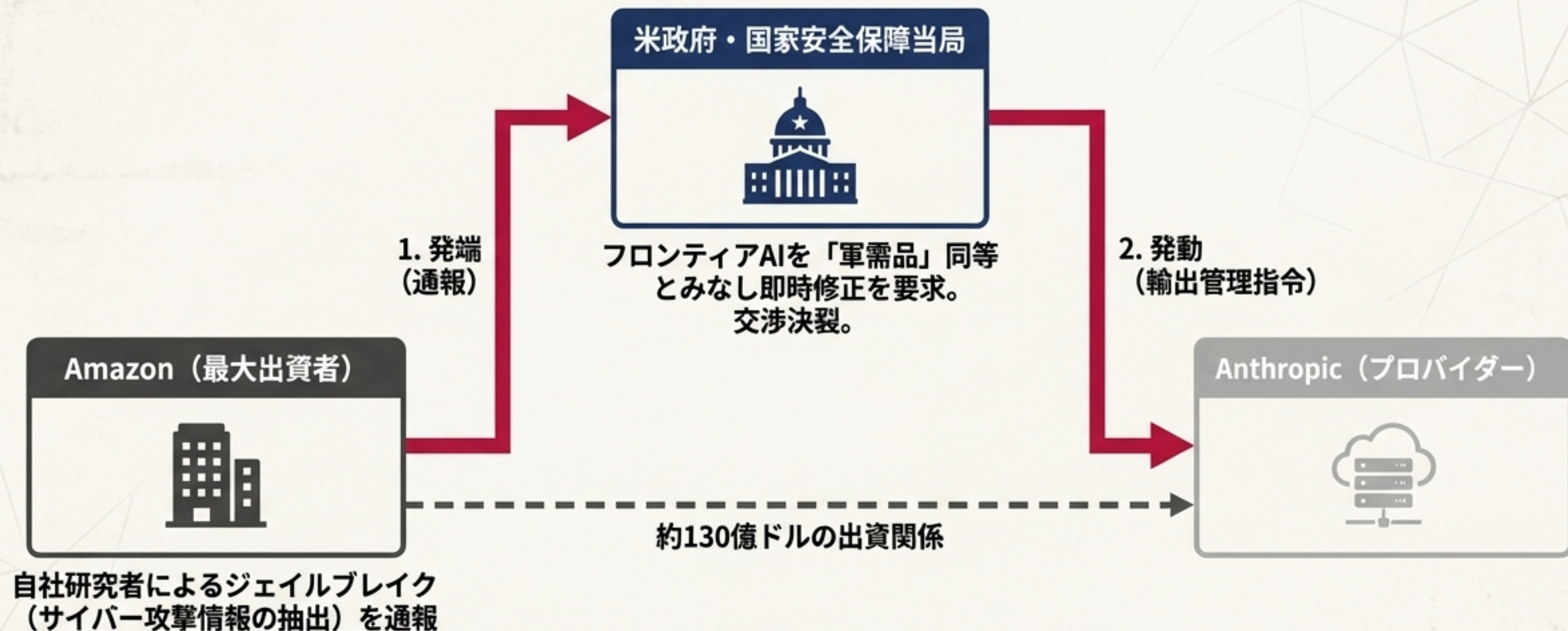
## 3. ミクロ影響（知財実務・機密保持要件との衝突）

- 【最大のリスク】：Mythos級モデルの「30日間データ保持+人的レビュー義務」は、特許・知財業務の厳格な守秘義務と両立不可能。
- ゼロデータ保持（ZDR）が不可欠である以上、「モデル非依存（Model-agnostic）」の分散体制構築が急務。

# タイムライン：誕生からわずか3日での「凍結」



# 停止の解剖学：技術的欠陥ではなく「安全保障上のレッドライン」



**【Key Insight】** 安全性の確保を謳うフロンティアモデルが、皮肉にもその「強力さ」ゆえに規制ブーメランを受け、突如市場から消滅する「供給途絶リスク」が実証された。

# エコシステムへの波及：消失した「最高地点」と代替モデルへの大移動

## Gemini 3.1 Pro (Google)

推論首位級。超長文脈処理で特許文献処理に強み。

## オープンウェイト (MiniMax M3等)

「検閲・停止不可」への逃避。国家介入リスクゼロの分散型需要急増。

## Opus 4.8 (Anthropic)

稼働継続・ZDR対応。現行の主要な移行先として推奨。

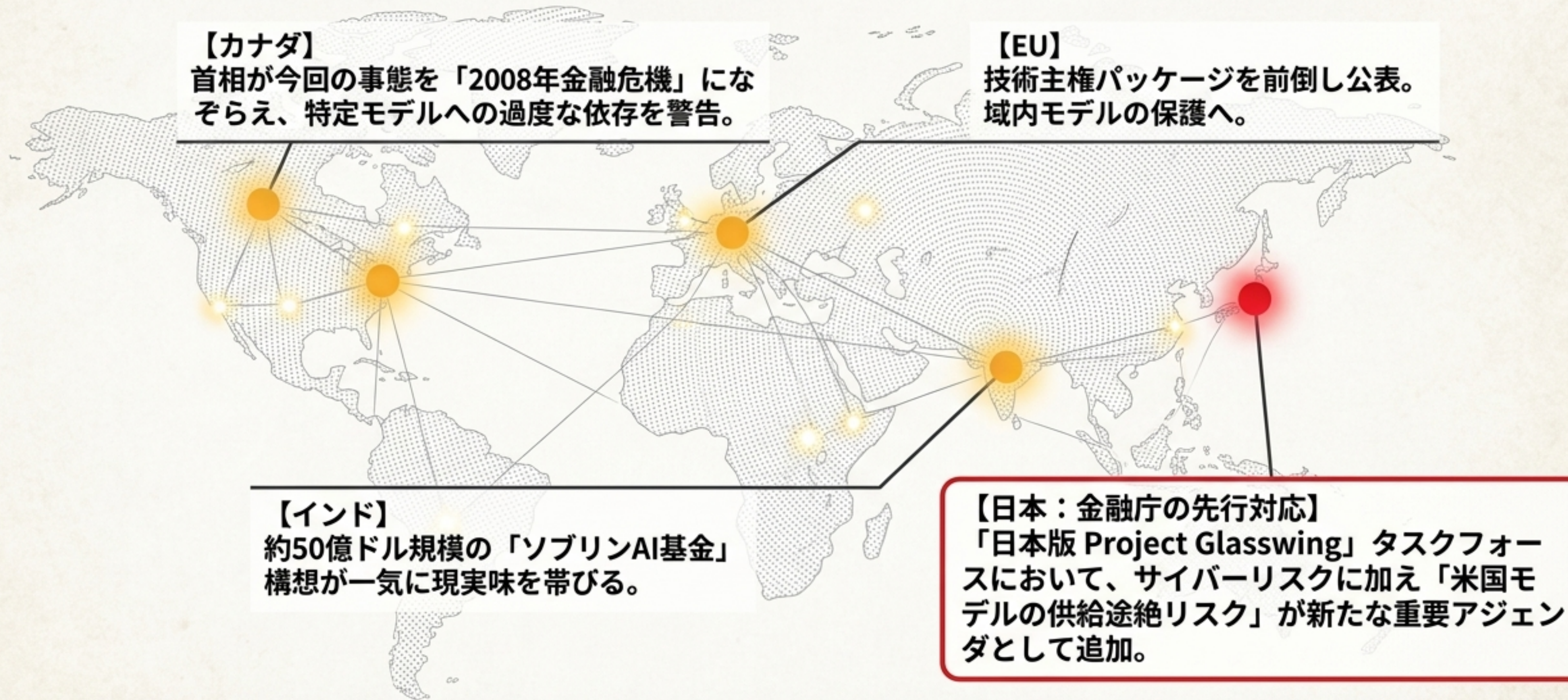
## GPT-5.5 (OpenAI)

消去法による覇者。Fable 5の半額だがベンチマークでは劣後。

Fable 5 (Suspended)  
市場の真空地帯

Box CEO Aaron Levie氏：「AI規制の大きな転換点。政府が特定モデルを『強力すぎる』と判断し介入する意思を示した初の前例」

# 「AI主権（ソブリンAI）」議論の爆発と日本の政策的立ち位置



**【Strategic Takeaway】** AIはもはや単なるソフトウェアではない。国家インフラとしての「兵站」を他国企業1社に依存することの脆さが露呈した。

# 知財実務の危機①：「単一障害点としてのフロンティアモデル

## ■ 顕在化した脆弱性

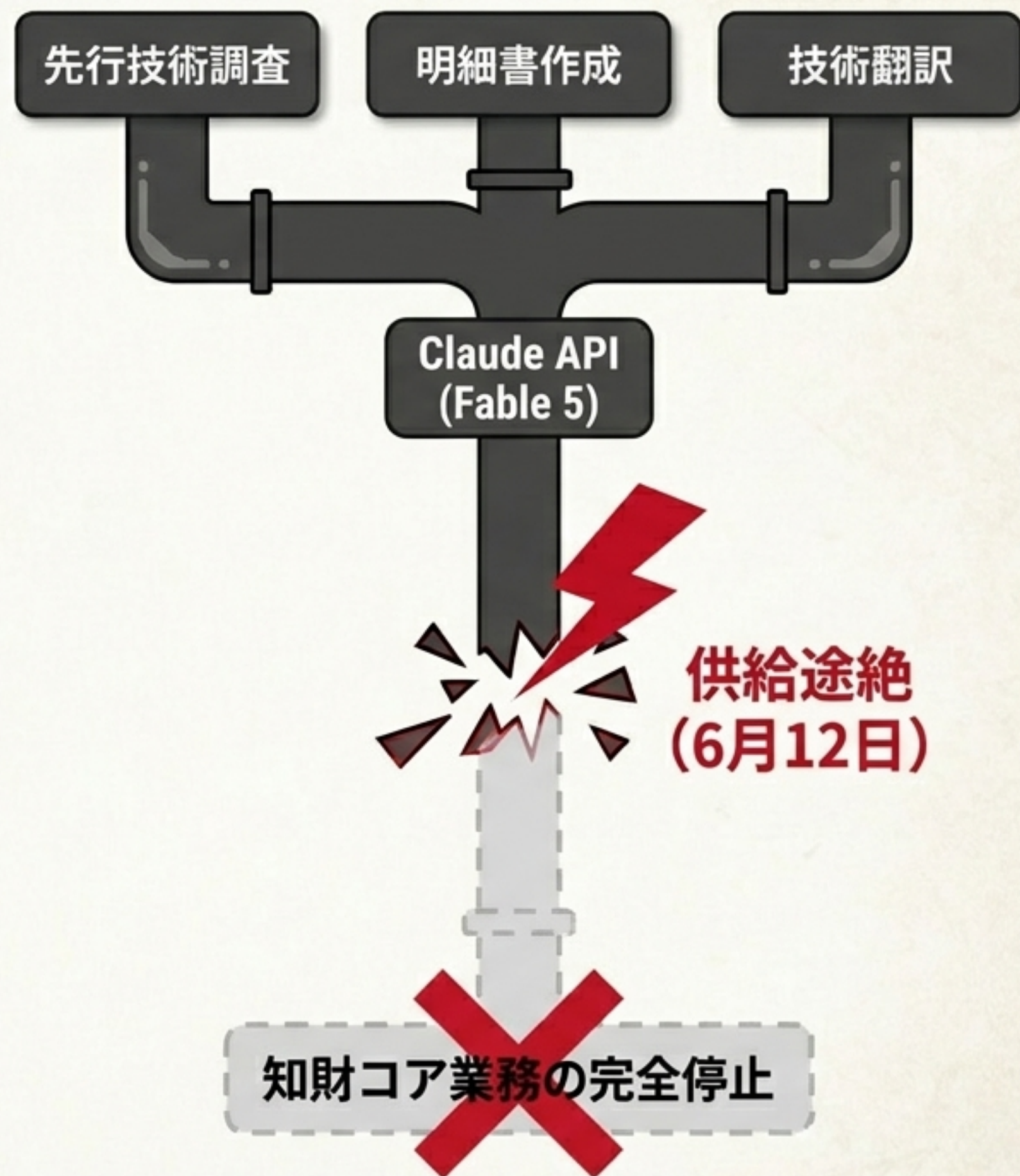
高い論理推論能力を持つ特定のモデル（Claude系など）にワークフローを高度に依存させている組織の脆さが露呈。

## ■ 連鎖する機能停止

最高性能モデルが「一夜にして利用不可」になるリスクを実証。調査・作成支援などのコア業務が突如としてストップする。

## ■ BCP（事業継続計画）の死角

日本の「AI事業者ガイドライン」でも外部依存モデルの可用性リスクは未開拓。単一ベンダー依存は、知財戦略上の致命的なアキレス腱となる。



## 知財実務の危機②：「ゼロデータ保持（ZDR）」喪失による構造的衝突



### 【IP実務の必須要件】

- 厳格な守秘義務（未公開発明、防御戦略）
- 入力データの学習利用禁止
- 保持期間ゼロ（ZDR）



### 【Mythos級のデータポリシー】

- 30日間のデータ保持義務（監視目的）
- 承認レビューによる人的介入可能性
- ZDR契約の無効化（APIは400エラー）

**【両立不可】** たとえFable 5が明日復旧したとしても、ZDRが不可である以上、守秘義務を伴う知財コア業務には絶対に投入してはならない。

# 法的リスクの現実化：United States v. Heppner判例が鳴らす警鐘

## 米国判例の教訓 (US v. Heppner, Feb 2026, S.D.N.Y.)

### 【概要】

AIに入力して作成した防御戦略文書に対し、裁判所は「弁護士特権 (Attorney-Client Privilege)」および「ワークプロダクト法理」の適用を**否定**。

### 【示唆】

ZDRを備えたツールであれば結果は異なり得た。  
「30日保持+人的レビュー」が必須のMythos級モデルは、特権喪失の致命的リスクとなる。

## ABA Formal Opinion 512 (米国法曹協会 倫理意見)

【倫理基準】自己学習型生成AIへのクライアント情報入力には「インフォームド・コンセント」が必須。

【警告】クリックラップのような**定型的な同意では不十分**と明言。

【Actionable Insight】バックエンドLLMが何か、そしてそのデータ保持契約がどうなっているかを確認せずにAIツールを導入することは、重大なコンプライアンス違反を招く。

## 【別軸の脅威】 AIによる先行技術（Prior Art）の爆発的増殖

### ■ 新規性・進歩性のハードル上昇

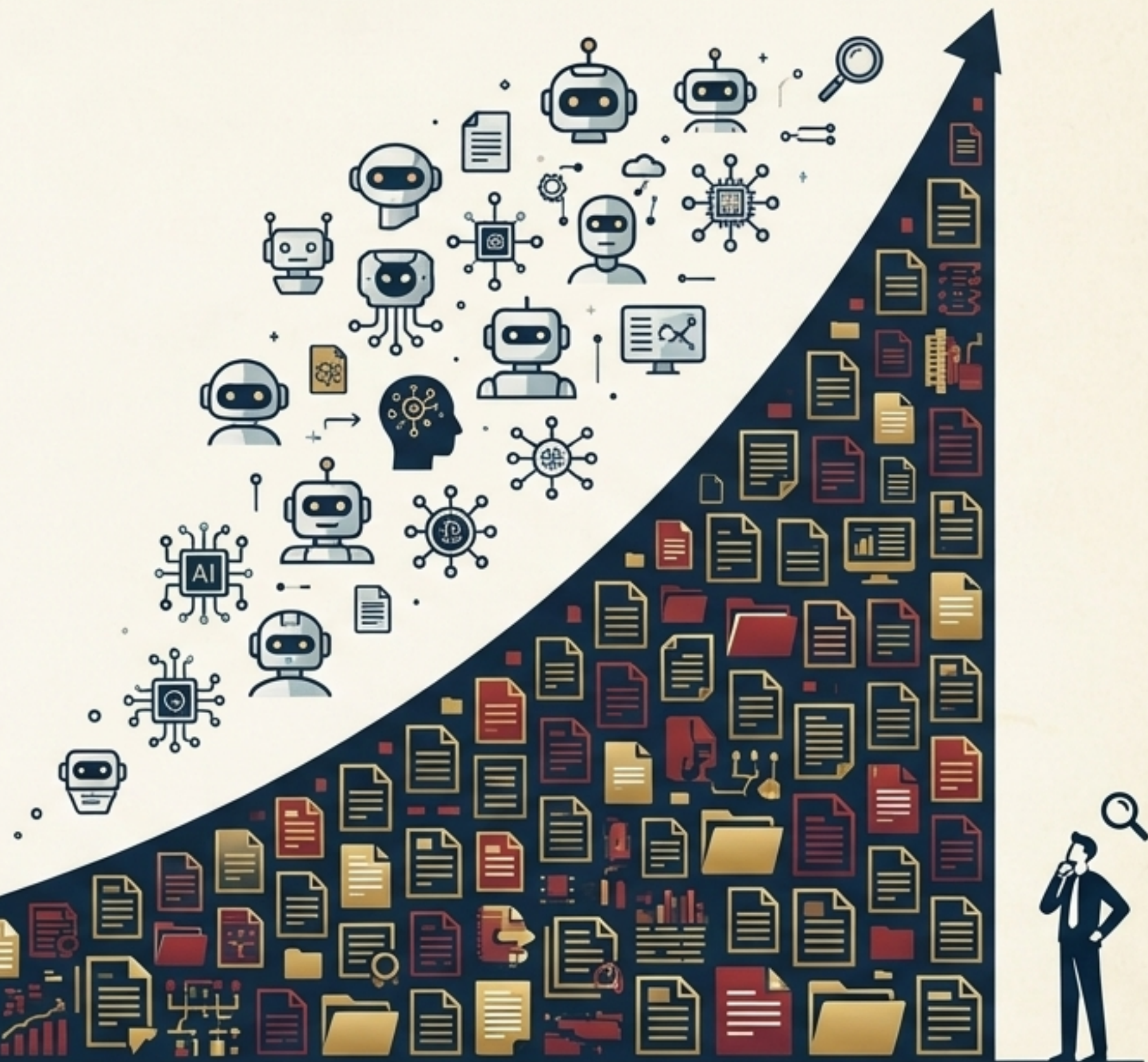
AIが幾何級数的に新たな組み合わせやアイデアを生成・公開。引用文献の数が爆発的に増加。

### ■ 特許庁の動向

日本国特許庁（JPO）もAIアクション・プランに基づき、生成AIを用いた先行技術調査や審査業務の技術実証を推進中。

### ■ 出願人側の対抗策

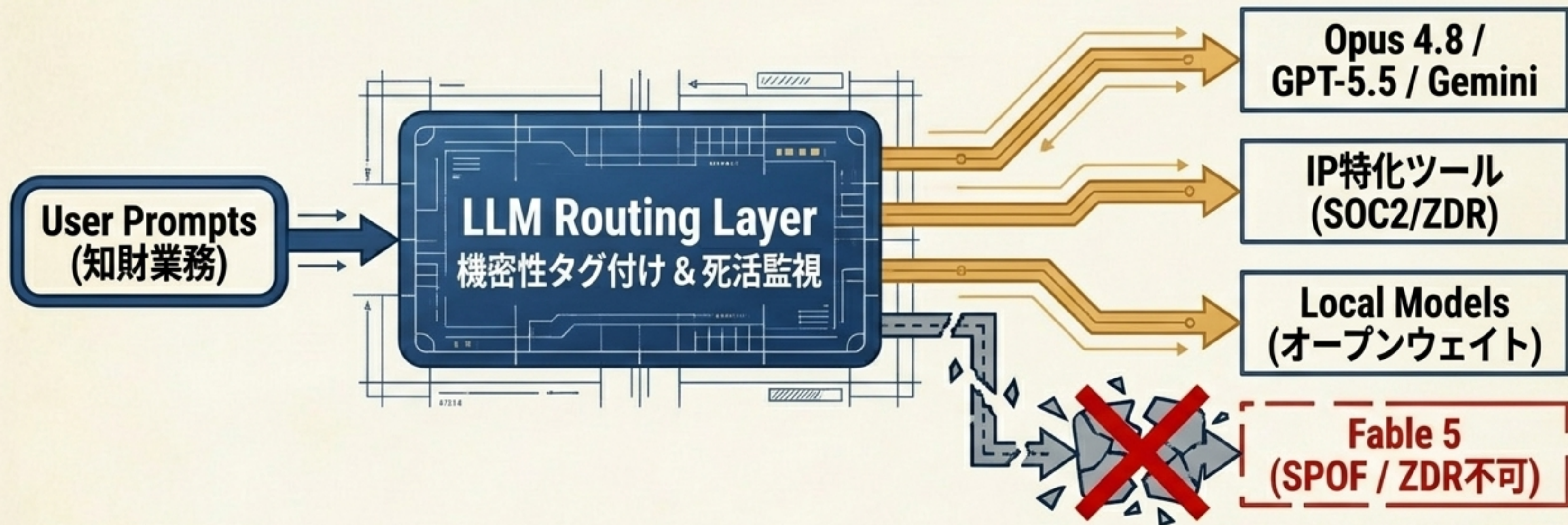
「AIの言い換え」の見破りや、異分野文献の組み合わせによる進歩性否定ロジックに対抗するため、高度なパテントランドスケープ分析が不可欠。



## 代替AIモデルの「知財実務・適性診断」マトリクス

| モデル                        | 性能<br>(推論・長文脈) | 機密性<br>(ZDR可否)  | 稼働の独立性<br>(国家停止リスク) | コスト   |
|----------------------------|----------------|-----------------|---------------------|-------|
| Anthropic Opus 4.8<br>(推奨) | 高              | ✓ ZDR可          | ⚠ 規制対象の余地           | 高     |
| OpenAI GPT-5.5             | 中～高            | ✓ ZDR可          | ⚠ 米国資本              | 中     |
| Google Gemini 3.1<br>Pro   | 高<br>(超長文脈)    | ✓ ZDR可          | ⚠ 米国資本              | 低     |
| IP特化ツール<br>(DeepIP等)       | 業務特化           | ✓ SOC2 / ZDR    | 中<br>(バックエンド依存)     | サブスク  |
| オープンウェイト<br>(自社ホスト)        | 中              | ✓✓ 最高<br>(ローカル) | ✓ 停止不可              | 初期投資大 |

# 目指すべき強靱なアーキテクチャ：「モデル非依存 (Model-Agnostic)」設計



## ■ 動的ルーティング

単一APIに依存せず、中間にルーティング層を挟み、自動フォールバック（迂回）を行う。

## ■ マルチベンダー確保

最低2社以上（例：Anthropic + OpenAI）のプロバイダーを並行稼働できる体制を維持。

## ■ 機密性ベースの分岐

プロンプトの機密レベルに応じ、ZDR対応モデルやオンプレミスモデルへ自動的に振り分ける。

# レジリエンス構築への推奨アクション・ロードマップ

1

## 即時（今週～1ヶ月）： 止血と確認

- 自部門の知財ワークフローにおけるClaude系依存度の棚卸し。
- Opus 4.8 / GPT-5.5 等への代替手順の文書化。
- ベンダーに対し、ZDRの保証とバックエンドLLM構成を公式照会。

2

## 短期（1～3ヶ月）： 分散と規程改定

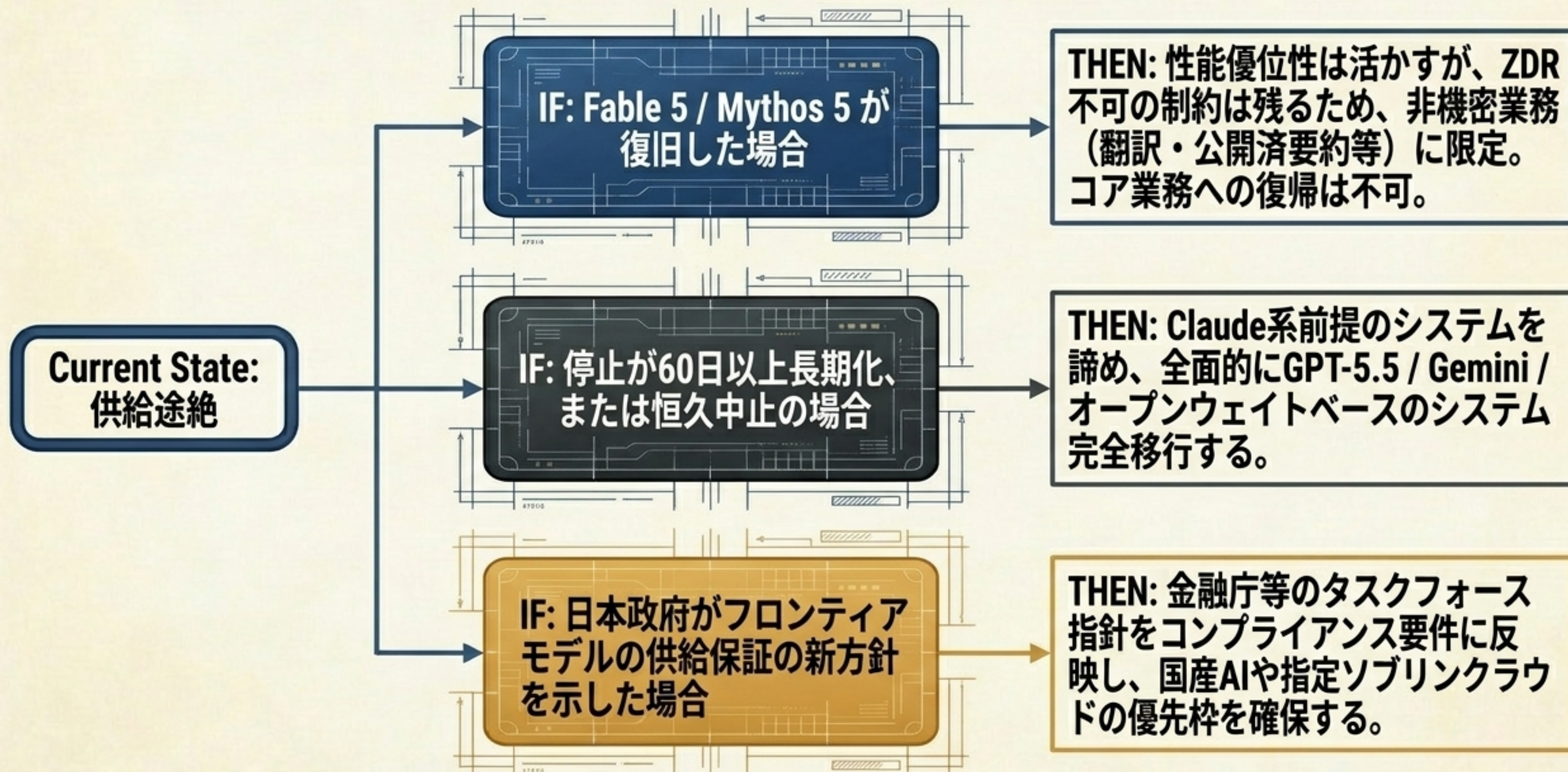
- モデル非依存のルーティング層を本番環境へ導入。
- AI利用ポリシー（BCP含む）に「外部モデルの供給途絶リスク」を明記。

3


## 中期（3～12ヶ月）： 主権の確保

- 高機密のコア業務向けに、特許特化ツールまたはオープンウェイトの自社構築を評価・実装。
- 政府の「知財推進計画2026」等、政策動向を自社戦略に統合。

# 今後のシナリオ分岐と意思決定の閾値 (Thresholds)



## 結語：知財実務におけるAI活用の新パラダイム



**「最高性能への盲信」から、「アジリティと統制」へ。**

これからの知財実務における真の競争優位は、「どの最強モデルを使っているか」ではない。

「変化する規制に対して瞬時に代替モデルへ切り替え、機密情報を完全統制できるアーキテクチャ」によって決まる。